

回 市立潮音保育園(山口県下松市)を訪ねて

保護塗料に低臭性のフォレストージを

受け入れ増に向けた増築で木材を活用

山口県下松市では0~2歳児の受け入れを増やそうと、市内4カ所の保育園で増築工事を手掛けてきた。2011年3月に最後の工事を終えたのが、潮音保育園。事務室を別棟にし、1・2歳児共同の保育室を専用に改めた。事務室と園舎を結ぶ渡り廊下にはムクの木材を活用し、保護塗料として低臭性を持ち味とする「キシラデコール フォレストージ」を用いた。

ムクの木材に囲まれた渡り廊下を、0歳児だろうか1歳児だろうか、まだ足元のおぼつかない子どもが素足でよたよたと歩いてくる。顔の高さには腰壁の木肌。子どもたちには木材のトンネルのように見えるのかもしれない。

この渡り廊下は、山口県下松市の市立潮音保育園に2010年度に完成

したもの。1962年竣工の既存園舎と、渡り廊下の設置と同時に新設した事務室を結ぶ半屋外空間だ。構造部材と床・腰壁にはムクの木材を用いる。

園長の宗東真利子氏は「雨の日は園庭に出られないので、子どもたちは渡り廊下を通って事務室に遊びに来ます。木材は温かみがあって、香



下松市健康福祉部
児童家庭課
内富 真一 氏



下松市立潮音保育園
園長
宗東 真利子 氏

りもいい。ほっとすると、来客の評判も上々です」と評価する。

増築工事で渡り廊下と事務室を新設した背景には、0~2歳児の受け入れ増を図る意図がある。下松市健康福祉部児童家庭課の内富真一氏はこう説明する。

「人口の総数は増えていませんが、若い共働き世帯の流入が目立ちます。子どもを生後間もなくから預ける世帯を考えると、0歳児保育の充実を図る必要があります。一方、育児休業を終えて職場に復帰する段階で子どもを預ける世帯も多いので、1・2歳児の受け入れ増を図る必要もあります」

提案受け入れ木材活用へ 子どもに温もり伝えたい

市ではこうした事情から、市内の保育園4カ所を対象に0~2歳児の保育室を整備する増築工事を手掛けてきた。潮音保育園の増築工事もその一環で、これを最後に一連の増築工事を終えた。

潮音保育園の増築工事では、出入口付近の一角で、門扉・フェン

スや遊具を移設し、その跡に事務室を新設すると同時に、既存の園舎との間を結ぶ渡り廊下を設置。園舎内の旧事務室を0歳児保育室に作り替える一方で、旧0歳児保育室と旧1・2歳児保育室を、1歳児と2歳児の保育室に充てた。

増築工事ではムクの木材を、渡り廊下の構造部材と床・腰壁のほか、事務室の仕上げにも一部活用した。内富氏は「保育園という施設の性格上、温もりを伝えていきたい、と市の建築担当者から提案を受けたのがきっかけです」と語る。

提案を受け入れた内富氏の考えには、木材の活用は維持管理上も好都合との思いがあった。

低臭性のフォレストージ 施工中も臭いが気にならず

「基礎を設けてその上に床材を置く造りなら、床材が傷んだ場合、床だけを取り替えることができるので修理・修繕しやすい、と考えていました。また、コンクリートの床は雨に濡れると滑ることがあって危険です。安全面でも木材は優れていると判断しました」

園児の安全・安心を考慮して 低臭性のフォレストージを採用

武居設計事務所 代表 武居 健二 氏

潮音保育園で渡り廊下に木材を用いたのは、地元の下松市で公共建築に対して木材を積極活用していこうとの考え方を持っているからです。ただし、屋外で木材を用いる場合は、耐久性を確保する観点から木材保護塗料の塗布が欠かせません。

屋外用の木材保護塗料としては、これまでキシラデコールをよく使ってきました。長年にわたって実績が豊富であることから、性能面で安心して使うことができます。

潮音保育園の渡り廊下では、まず何

よりも木材保護塗料に防腐の役目を求めました。構造部材や腰壁に活用したヒノキの木目を生かそうとも考えました。園児の安全・安心を考えると、低臭性も欲しかった。

こうした理由から、木材保護塗料にはキシラデコールと同等の性能でありながらにおいを抑えた「キシラデコール フォレストージ」を採用することにしました。耐久性が高く無塗装で済むオーストラリアヒノキを用いた床材を除き、屋外の木部にはすべて塗装を施しました。(談)

ただし、屋外にもムクの木材を用いる以上、木材保護塗料の塗布は欠かせない。渡り廊下の構造部材と床・腰壁で採用したのは、キシラデコールと同等の性能を持ちながら、臭いを抑えた「キシラデコール フォレストージ」だ。

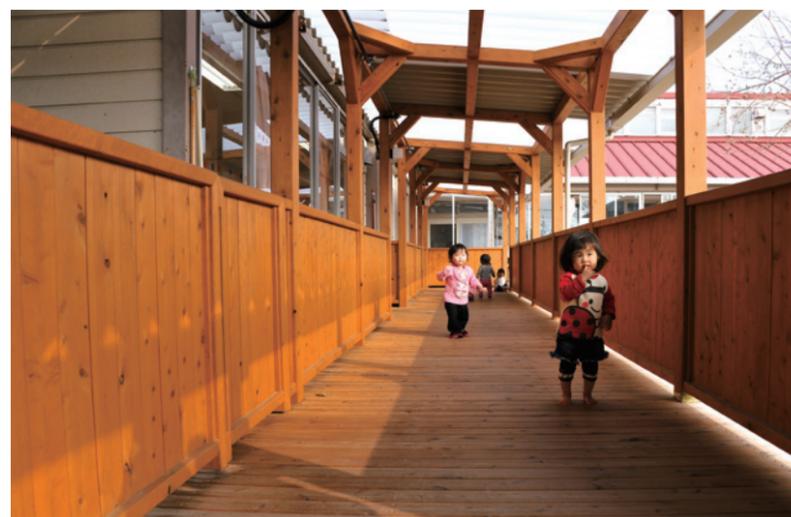
「採用した理由の一つには、その低臭性があります」と、設計を担当した武居設計代表の武居健二氏は語る。低臭性であることは施工時

に実感できるように、施工を担当した野田建設で現場所長を務めた岩本幸雄氏は「木材保護塗料のにおいては、施工中もほとんど気になりませんでした」と振り返る。

木材保護塗料はその効能を持続させるために、定期的な塗り替えが欠かせない。内富氏は「現地の状況を見ながら、市の建築担当者と協議のうえ対応していく考えです」と話している。



左 左手に見える事務室と、そこから右方向、既存の園舎との間を結ぶ渡り廊下を、2010年度工事で増築した。下 渡り廊下の床には耐久性の高いオーストラリアヒノキを、構造部材や腰壁にはヒノキを用いた。構造部材や腰壁には木材保護塗料として「キシラデコール フォレストージ」を塗布している



木材保護のトータルソリューションパートナー



日本エンバイロケミカルズ株式会社



製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
販売先: AkzoNobel Deco GmbH

【お問い合わせ】 大阪 〒550-0023 大阪市西区千代崎三丁目南2番37号 ドームシティガスビル ☎ 06-4393-0054
東京 〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号 芝公園NDビル3階 ☎ 03-5444-9860

☎ 0120-124-123 www.jechem.co.jp [キシラデコールに関する情報満載! ▶ www.xyladecor.jp]